

shiga GPN news

滋賀グリーン購入ネットワークニュース
第2号 2001年12月



滋賀グリーン購入ネットワーク設立2周年を迎えて

滋賀グリーン購入ネットワーク 代表幹事 土屋 正春



滋賀グリーン購入ネットワークが発足して、2周年を迎えました。発足した当時、会員は242団体でありましたが、現在はようやく335団体になりました。これまでのネットワークの活動を振り返りますと、今年は特に浜大津港周辺での夏のイベント「なぎさエコらいふ21」の「くらし創造館」での出展展示をはじめ、「びわ湖国際環境ビジネスメッセ2001」への出展展示やフォーラムの開催、各研究会の発足など、会員の積極的な参加による事業展開を図ることができました。

これにとどまることなく、引き続き、会員はもとより県民や事業者、消費者団体の皆様に向けての啓発活動を積極的に展開する必要があります。そのためには、活動をする上での基盤であります私たちの仲間を増やしていくこととならび、そうした会員自らが創意と工夫のもとに、お互いに知恵を出し合い、実践を重ねることが欠かせません。

全国情報によりますと、地域ネットワークが各方面で立ち上がる動向もあるようです。これが実現しますと、地域ネットワーク間の情報交換、意見交換など、私たちがこの2年間培ってきたトップランナーとしてのノウハウなどが生かされる場面が予想され、今後、ますます滋賀グリーン購入ネットワークの果たす役割が期待されます。

ホームページもリニューアルし、研究会情報や交流広場など内容も充実しつつあります。この2周年を機に滋賀グリーン購入ネットワークの活発な活動に向けて、さらにご協力を頂ければ有難い次第です。

湖国21世紀記念事業 夢〜舞めんと滋賀 『はじまり宣言』

県内各地で開かれてきた「湖国21世紀記念事業」を締めくくるセレモニーが、11月18日に彦根市で行われました。このセレモニーは、記念事業は閉幕となっても、それによって芽生えた県民の新しい動きは新たにはじまり、より確かに大きく育っていかねばならないという意味で「はじまり宣言」と名付けられ、國松善次知事も、環境に関する「三つのはじまりアピール」と「県政としてのアピール」を述べられました。

「三つのはじまりアピール」

1. みんなで、ゴミを10年間で半分以下にしていこう。
2. みんなで、琵琶湖の水を20年間で昭和40年代前半の水質に。
3. みんなで、びわこ地球市民の森づくりを。

「県政としてのアピール」

1. 県民・NPOなどのみなさんとの協働を第一に。
2. 常識や前例にとらわれず、新しいルール、文化づくりに。
3. ゼロエミッション社会をめざし、「出る杭」と言われる取り組みを応援。



なお、当ネットワークは7月20日～8月19日に浜大津港周辺で行われた、記念事業のひとつである「なぎさエコらいふ21」に出展参加いたしました。

Contents

■滋賀GPN設立2周年を迎えて	1	■「びわ湖国際環境ビジネスメッセ2001」出展報告	5
■夢〜舞めんと滋賀『はじまり宣言』	1	■「グリーン購入フォーラム」開催報告	6
■「なぎさエコらいふ21」を振り返って	2	■「ブルーエンジェル(ドイツ)とエコマーク」	8
■活動報告・ホームページリニューアルのお知らせ	4	■会員内訳・新規入会会員	8
		■事務局からのお知らせ	8

『なぎさエコらいふ21』を振り返って

(順不同・敬称略)

自分達の活動を振り返って

(株)滋賀銀行 富江 政和

滋賀グリーン購入ネットワークのブース運営スタッフとして参加。子供達が夏休み中とはいえ、記録的な猛暑の続く中でのイベント会場にはたして来場者があるだろうか心配していたが、予想以上の盛況であった。

ただ、グリーン購入という言葉自体の認知度はまだまだ低く、積極的な呼び込みが必要であったが、啓発パネルやクイズを通しての反応は良かったと感じている。環境問題への意識は、このような催しに参加し体験してもらえらる機会に接することで向上するのだろうと思う。人・物・金をかけて果たしてこれが環境にやさしい活動なのかとの想いもない訳ではないが、やるからには有意義な場にすべきだと痛感した次第です。

でも、とにかく暑かったし疲れた。



記念事業に参加し、気づいたこと

コクヨ近畿販売(株)京都支店
営業本部 営業開発課 塚田 祐輔

私は、滋賀グリーン購入ネットワークの出展ブースをお手伝いしました。実際に携わってみて、来場者のみなさんの環境への意識が高いことと、そして環境に対して興味を持っていることに驚きました。

日頃は企業の環境担当者として活動していますが、仕事以外での部分で日常生活の中で、本当に自分が環境に対して考えて行動しているのかどうか改めて考えさせて頂くのに非常に良い機会だったと思います。

本当に良い経験になりました。ありがとうございました。

参加しての思い

トラヤ商事(株) 上田 忠男

今回の「なぎさエコらいふ21」での滋賀グリーン購入ネットワークのブースは身近な環境をテーマに10ヶ所のポイントを回るものでしたが、来場した親子などが、ひとつのポイントごとに環境に対して対話し・考え・気づきながら進んでいく光景は、これからのグリーン購入への意識改革につながると思いました。

そしてお父さんや、お母さんと一緒に考え、喜びながら子ども達がティッシュケース作りをしたことも良かったと思います。



うれしかったこと

滋賀県立大学グリーンコンシューマーサークル 柴崎 将也

質問に答えたり、逆に、私たちが話し掛けたりと、お客さんとの交流というのは実に大変なものでした。しかし、その半面「やってよかったなあ」という気持ちにさせてくれたのも事実です。面と向かって会話をして交流することが、いかに大事かということも学びました。

記念事業を通じて、多くの方と話せたことは、本当に良かったと思っています。

『なぎさエコらいふ21』を振り返って

感動したこと

新江州(株) 営業開発部 竹内 真美

ダンボール製の部屋って意外と落ち着くんです。これから、家具もテーブルもどんどんダンボールを使用していけば…どうなるのでしょうか??ダンボール製の椅子がありました。大人から子どもまでが座れるって、丈夫!!今、ダンボール製のベットが商品として市場にあります。部屋をすべてダンボール製に変えたいと思いました。

記念事業に参加して

藤野商事(株) 長崎 奈穂子

あの夏の暑い日
うおーたんに出逢えた。
いろいろな人と触れ合えた。
いい社外活動をさせていただきました。
ありがとうございました。



みんなで盛り上げ、盛り上がり乗り越えた暑い夏

滋賀県庁エコライフ推進課 小川 長利

企業やNPO等が21世紀の暮らしをそれぞれの視点から描く「21世紀暮らし創造館」のなかで「体験・発見!エコ生活で世界が変わる」のテーマのもと「滋賀グリーン購入ネットワーク」が企画したブースは大盛況で、子どもから大人まで親しみながら、グリーン購入を体験、発見できる「お買い物ゲーム」や「エコライフチェック」に14,437人が参加された。

初日は、1,000人を超える来場者があり、期間中終日多くの親子連れが来場され、身近なところから環境に配慮した生活を考え、行動を移すきっかけづくりとなった。

グリーン購入って、何のこと????という人が、世間一般では、10人中9人だから、テーマ「体験発見エコ生活で世界が変わる!」を全面的に押しだし、うおーたんとともに、今回のイベントのキャラクターの「グリーンちゃん」の活躍により、知らないうちに、グリーン購入の世界に導いていこう、わかってもらおうとする仕掛けを施した。

周りのブースのパビリオンと違って、ダンボールと間伐材のテーブル、環境対応製品を使用した装飾を施し、見附の部分は、このブース何かな、半分だけ中が見えて、入って見たくなる。

そうすれば、いよいよ「お買い物ゲーム」のスタート、10ポイント終了すれば、エコ商品の景品がもれなくプレゼントされる。

リビングライフ・キッチンライフ・スクールライフの3つのライフステージの実物部分模型を作成、また、サイドイベントとして、子ども向けには、ティッシュペーパーの箱の工作教室を実施したことも来場者の目に止まった。

設立されて1年半の団体であったが、会員にスタッフ参加の呼びかけをしたところ、積極的に企業、行政機関、滋賀県立大学の学生さんの参加をいただき、合計33団体、事務局も含めると、延べ190人もの人たちが参加された。スタッフとして参加することにより、会員間の意志疎通が図られ、共通認識や理解が進んだことも、「なぎさエコらいふ21」に参加した大きな成果だったと思われる。

身近なところから環境に配慮した生活を考え、行動を移すきっかけづくりが提供できたし、夏の記念イベントらしく暑いテントの中で「なぎさエコらいふ21」をみんなで盛り上げ、盛り上がり乗り越えられた。

「滋賀グリーン購入ネットワーク」は企業、行政機関、消費者団体等335の会員により支えられており、グリーン購入の果たす役割は大きく、グリーン購入に関する情報の発信、普及啓発を会員をはじめ、県民に提供するとともに、グリーン購入に対する理解を深め、実践活動のさらなる取り組みのきっかけづくりを促していきたい。

スタッフ参加団体 (順不同)

関西日本電気(株)、(株)滋賀銀行、関西電力(株)、キリンビール(株)、小林事務機(株)、昭和電工(株)、新江州(株)、ダイキン工業(株)、(株)たねや、長浜キヤノン(株)、西日本電信電話(株)、(株)ヒサダ昭栄堂、(株)平和堂、びわこナショナルファミリー会、滋賀県立大学グリーンコンシューマーサークル、滋賀県、大津市、彦根市、野洲町、蒲生町、(有)エルフ、滋賀県商工会連合会、(株)昭栄堂、(株)シスコ、(株)コメット、(株)清水商会、(株)コクヨ工業滋賀、(株)京都コクヨ(現コクヨ近畿販売(株)京都支店)、トラヤ商事(株)、(株)プラスワン、(株)琵琶湖ホテル、(株)サンシャインポリマー、藤野商事(株)

以上33団体

<協力> 信楽町森林組合

<支援> この事業は、WWFジャパンの「WWF・日興グリーンインベスターズ基金」からの助成事業として行いました。

◆企画段階から積極的に携わってくださった皆様、猛暑の中スタッフとしてご協力いただいた皆様、おかげをもちましてすばらしい成果を上げることができました。本当にありがとうございました。



グリーン購入の案内役 グリンです

滋賀GPN今年度の活動報告

◆会議の開催

- 2001. 4.25 第5回幹事会
- 4.25 「なぎさエコらいふ21」第1回会議
- 4.25 滋賀グリーン購入ネットワーク研究会打合せ
- 5. 9 「なぎさエコらいふ21」第2回会議
- 5.28 「なぎさエコらいふ21」第3回会議
- 5.30 2001年度通常総会
- 6.13 「なぎさエコらいふ21」第4回会議
- 6.26 機密書類処理方法研究会第1回企画会議
- 6.27 自治体のグリーン購入研究会第1回研修会
- 7. 4 第6回幹事会
- 7. 4 「なぎさエコらいふ21」第5回会議
- 7.13 「なぎさエコらいふ21」スタッフ説明会
- 8. 1 自治体のグリーン購入研究会第2回研修会
- 8.30 機密書類処理方法研究会第2回企画会議
- 9.19 第7回幹事会
- 10.18 評価手法研究会の立ち上げ及び第1回打合せ
- 11. 6 食のグリーン購入研究会第1回企画会議
- 11.26 自治体のグリーン購入研究会第3回研修会



◆活動実績

- ミニセミナー開催
2001. 9.27 機密書類処理方法研究会第1回研修会
- 外部団体主催セミナーへの協賛
8.29 環境調和型企業活動推進セミナー「環境ラベル」
10.11 環境調和型企業活動推進セミナー「環境意識の啓発方法」
- 地域イベントへの共催・協賛
7. 7～8 淡海エコライフフェア出展展示(彦根市)
7.20～8.19 「なぎさエコらいふ21」出展展示(大津市)
9.29～30 「おうみ市民活動屋台村」出展展示(大津市)
10.13 「湖東地域エコピア体験フォーラム2001」出展展示(秦荘町)
10.28 「愛郷エコライフフェア2001」小南自治会出展・啓発パネル貸出し(野洲町)
10.28 「ガレージセールin信楽」関西電力(株)出展・啓発パネル貸出し(信楽町)
11.14～17 「びわ湖国際環境ビジネスメッセ2001」米原会場出展展示
11.20 「関西日本電気(株)社内エコ講演会」啓発パネル貸出し
12.12～15 「エコプロダクツ2001」トラヤ商事(株)出展・滋賀GPNパネル貸出し(東京)
- フォーラムの開催
11.16 グリーン購入フォーラム(6ページをご覧ください)
- 滋賀GPN News(FAXリリース)発行
・第24号 2001. 4. 6 ・第25号 4.20 ・第26号 5.15 ・第27号 6. 8
・第28号 6.22 ・第29号 7.10 ・第30号 9. 3 ・第31号 10.17
・第32号 11. 5 ・第33号 11.22

滋賀GPNホームページがリニューアル!

12月中旬より、ホームページをリニューアル版にて公開していますので、ぜひ一度ご覧ください。

大きな変更点は、以前は画面下の方に小さく表示されていたメニュー部分を、縦並びにして画面左側に大きく表示したこと。これによって初めてこのサイトを訪れた人にも、見たいページが易く見つけやすくなりました。このメニューはトップページだけでなく、各ページにも表示されています。

また、メニューに「研究会情報」や「活動報告」などを追加し、ご覧下さった皆様にネットワークの活動内容をより理解していただけるようにいたしました。

また「交流広場」は会員相互の意見交換、交流の場として、どなたでもご参加いただける掲示板形式にいたしました。事務局への質問や要望などで、回答を広く皆様にお知らせしたい内容であれば、こちらをご利用いただくとよろしいかと思えます。

「滋賀GPN概要」「リンク集」等もまだまだこれからですが、今後中身を増やし、充実したものにしていきたいと思っています。

皆様と共に良いホームページを作成していきたいと思っていますので、ご意見・ご感想等をお寄せください。



滋賀グリーン購入ネットワークホームページ

<http://www.shigagpn.gr.jp/>

びわ湖国際環境ビジネスメッセ2001

■全体概要

11月14～17日にかけて、長浜・米原の両会場で開催されたびわ湖メッセ。

4年目を迎える今年は、滋賀から始まり世界を回って里帰りした「第9回世界湖沼会議」との同時開催となりました。

環境問題をテーマに滋賀から発信した2大イベントは、相乗効果もあって国内外からの注目を集め、4日間の来場者数は長浜会場48,300人、米原会場15,300人、合わせて63,600人にも達しました。

今回のメッセは、従来からの目的である企業向けの見本市としてだけでなく、一般消費者にも広く参加していただけるように一般向けの会場(米原会場)を設け、暮らしに身近な環境商品の紹介、即売等も行われたのが特徴です。

また、会場で販売している弁当や缶ジュース等はすべて「デポジット制度」を取り入れ、会場内のリサイクル率100%を達成されたのも印象的でした。



エコ情報室

商品に一定の預かり金(デポジット)を上乗せして販売し、容器などを返却した際に払い戻す「デポジット制度」は、欧米では概して導入している国もあるが、日本では一部の地域内で取り組んでいるだけ。同制度は、ゴミの散乱防止に有効な手段であり、リサイクル率アップにもつながる。

4年前に「デポジット法制定全国ネットワーク」が発足。現在約50団体、250人が加盟し、活動しているが、「新たな購入コストがかかる」とする事業者側の反発が根強く、実現の道はまだ険しい。

■滋賀GPN出展報告

滋賀グリーン購入ネットワークとしては、米原会場の導入ゾーンに(財)日本環境協会のエコマークと並んで、グリーン購入ネットワーク(東京渋谷区・略称GPN)との共同出展をいたしました。

グリーン商品、啓発パネル等を展示し、来場された方々に商品のご案内とネットワークの活動内容等をご説明させていただきました。

来場者の中には環境について熱心な質問を寄せる方も多く、県民や事業者の皆さんの意識の高さを喜ばしく思いました。しかしながら「グリーン購入」に対する認知度はまだまだと感じ、グリーン購入の意味を知っていると答えた人が12%という、2001年2月の(株)電通による消費者調査の結果通りという印象でした。



会場入り口近くにあった当ブースには、4日間とも来場者が絶えず、予め準備した約1,000部のパンフレット数種類も途中で補充が必要になる盛況ぶりでした。

また、初日には國松善次郎県知事が立ち寄られ、激励していただいた事も報告しておきます。(事務局)



グリーン購入フォーラム成功裏に終了

びわ湖国際環境ビジネスメッセの協賛事業として、当ネットワーク主催の「グリーン購入フォーラム」を11月16日滋賀県文化産業交流会館にて開催いたしました。

ドイツ連邦環境庁の出席で来日されていたフォルクハート・メッカー氏に「ドイツと日本・グリーン購入の未来を語る」というテーマでご講演をお願いし、(財)日本環境協会の田口理事のお話、当ネットワーク各研究会の報告も交えた中身の濃い内容で行いました。

当日は約110名の参加があり、熱心な参加者の質問も飛び交う有意義なフォーラムとなりました。

当日のプログラム

- 13:30 開会挨拶 代表幹事・滋賀県立大学環境科学部教授 土屋 正春氏
- 13:40 基調講演 ドイツ連邦環境庁環境保護広報課長 フォルクハート・メッカー氏
通訳/Dynamex GmbH 北島 吉春氏
- 15:00 基調対話 フォルクハート・メッカー氏 (財)日本環境協会理事 田口 整司氏
- 15:30 休憩
- 15:40 パネルディスカッション「これからの滋賀のグリーン購入を考える」
コーディネーター/代表幹事 土屋 正春氏
パネリスト/食のグリーン購入研究会リーダー (株)たねや総務部エコロジー推進課長 額田 隆義氏
グリーン購入評価手法研究会リーダー 関西日本電気(株)環境・工務センター主任 三好 君雄氏
機密書類処理方法研究会リーダー 小林事務機(株)取締役総務室長 寺澤 清穂氏
自治体のグリーン購入研究会リーダー 彦根市生活環境部生活環境課長 小菅 洋一氏
コメンテーター/フォルクハート・メッカー氏
- 16:30 閉会



開会挨拶



パネルディスカッション

《びわ湖メッセ・グリーン購入フォーラム スタッフ参加団体》(順不同)

関西日本電気(株)、関西電力(株)、シスコ(株)、昭和電工(株)、新江州(株)、(株)たねや、日本電気硝子(株)
びわこナショナルファミリー会 (株)プラスワン 大津市 彦根市 米原町 野洲町 滋賀県

〈協力〉財団法人日本環境協会

〈後援〉グリーン購入ネットワーク

びわ湖国際環境ビジネスメッセ2001展示出展中にフォーラム開催ということもあり、皆様のご協力なしには成り立たない事業でした。スタッフとして参加していただいた皆様には本当にお世話になり、ありがとうございました。

メッカー氏の講演より



ブルーエンジェルのマークは、消費者に対して「環境にやさしい商品」を表示する一つの手段として使われている。役割としては、消費者が物品を購入するときどの商品を選べばいいかという判断基準。また、経済・産業界にとって「環境にやさしい商品」を今後販売していくための手段でもある。それだけドイツの消費者に信頼されているマークであり、メーカーが環境問題に取り組んでいるという指標にも使われている。

取得に当たってはきびしい判断基準が設けられ、環境にやさしいという条件にかなった商品の中でも、機能的にも優れている3分の1くらいの商品しか取得できない。製品だけでなくサービスの部門にも授与されるが、製品の場合は製造の過程から使用後の処理まで、その寿命のある限り環境にやさしいことが要求される。(中略)

グリーン購入は、環境問題への取り組みに大きく貢献している。しかも革新的な企業にとっては新しい市場進出へのチャンスにもなる。そのチャンスというのは、「環境にやさしい商品」を販売することだけでなく、既存の商品をより環境にやさしい商品に開発する開発能力をも得られ、開発・製品化する企業には競争力の強化が約束されるということでもある。

ドイツだけでなく、環境にやさしい製品を調達するということは、単に環境保護に役立っているということではなく、将来コストを節約することにも大いに関係する。資源を節約し、商品の寿命を延ばし、修理コストやその後の廃棄物処理にかかるコストも節約する。

グリーン調達をテーマにすると、国際的にはさらに意味を高める。グリーン・ガバメントという形で活動を始めているのは、アメリカ、カナダ、スイス、オランダ、スウェーデン、そして当然ながら日本でも始められている。(中略)

ドイツ環境庁から「環境にやさしい商品」のガイドブックを出していて、団体から一般消費者にも利用してもらえよう努力している。ハンドブックには特定の推奨品が記載されており、ブルーエンジェル以外の商品もあるが、やはり厳しい判断基準をクリアしているため、ブルーエンジェルの商品はドイツの中で唯一信頼できる表示マークをつけた商品であり、「環境にやさしい商品」のスタンダードだといえる。(中略)

ドイツでは年間150万tの電気製品が廃棄物として出されるが、そのうち11万tが情報機器。ドイツのエネルギー研究所によると、1台のコンピューターをつくるのに16~19tの資源が必要とされているそうである。1台のコンピューターを30kgとすると、その600倍の資源が利用されていることになる。エネルギーと資源の消費を削減する方法を考えると、機械の寿命を延ばすこと、使用後の商品を簡単に分解してリサイクルできることなどが重要である。

今後、この分解リサイクル資源を生かし、ゴミの量を減らす必要がある。メーカーは販売した機械を最終的にもう一度回収することが義務であり、リサイクルしやすい設計にしていかなければならない。(後略)



メッカー氏と田口氏の基調対話より

(田 口) 日本のエコマークの認知度は一般消費者まではあまり浸透されていないが、ドイツではどうか。

(メッカー) ドイツ国民の80%はブルーエンジェルを知っていて、その意味も理解している。国民がものを買う場合、品質の良さ・値段の安さとともに環境にやさしいものを選んで買う習慣がある。

(田 口) 日本のGPNは企業会員が2000社くらい。ドイツの産業界は、グリーン購入に対して熱心か。

(メッカー) ブルーエンジェルを取得しているメーカーは、それを利用し、活用している。取得していることが、グリーン購入に取り組んでいるという指標にもなり、メーカー側もそれを売り物にしている。

(田 口) 商品認定の基準など、ブルーエンジェルの今後は。

(メッカー) 取得するための基準はたいへん厳しいが、厳しくすることが使命だと思っている。今後も基準をより厳しくすることに努め、より環境にやさしく機能を充実させた商品を市場に備えていきたい。(敬称略)

※この原稿は、当日の北島氏の逐次通訳を元に作成いたしました。

パネルディスカッションの内容は各研究会の活動報告とともに、次号にてご紹介する予定です。



「ブルーエンジェル(ドイツ)とエコマーク」

グリーン購入フォーラム配布資料より

ブルーエンジェル



- ★ 設立年 1978年
- ★ 運営主体 連邦環境庁 (UBA/FEA) / ドイツ品質保証・ラベル協会 (RAL)
- ★ 性格 政府のラベルで、運営は政府と民間非営利組織で分担
- ★ 商品類型数 79
- ★ 認定商品数 約4500

世界最初のエコラベルとしてスタートしたブルーエンジェルは、その後各国で誕生した制度の大きな手本となってきた。ブルーエンジェルは消費者だけでなく公共機関のグリーン購入の指針としても使われることが多いために影響力が大きく、その動向にはドイツだけでなく各国の輸出メーカーが大きな関心を払っている。

エコマーク



- ★ 設立年 1989年
- 1987年 環境庁が「環境保全型商品推進事業に関する報告書」をまとめ、実施を計画。
1988年 (財)日本環境協会がエコマークのデザインを一般公募。現在のものに決定。
- ★ 運営主体 財団法人日本環境協会
- ★ 商品類型数 68
- ★ 認定商品数 4480

エコマークのデザインには「私たちの手で地球を、環境を守ろう」という意味がある。今日の環境問題を解決し、環境の恵みを将来の世代にまで伝えていくためには、社会を構成する一人一人が力を合わせて、これまでの経済社会システムや生活様式のあり方を見直し、環境への負荷の少ない持続可能な社会の実現を図っていく必要がある。エコマーク制度は、商品の選択という側面から、環境にやさしい生活様式 (エコロジカル・ライフスタイル) を提案しようとするものである。

会員内訳

(2001年12月15日現在)

企業	247
非営利団体	33
行政	55
入会団体合計	335

新規入会会員

(2001年4月1日～12月15日)

(株)ステップワン、美濃屋紙店、(株)アイランス、
(株)琵琶湖ホテル、(有)レスコ、(株)奥田工務店、
(株)アークレイファクトリー、(株)ダスキン湖南、
装苑アート、(有)長浜ユニフォーム、(株)辻正、
東急観光(株)滋賀支店、(有)ナユタ、(株)プラスワン

事務局からのお知らせ

今後、FAXリリースをメールマガジンに移行していく予定です。
同封の「メルマガ・アンケート」に必要事項をご記入の上、FAXでの提出をお願いいたします。
「滋賀GPNニュース」では、皆様のご意見をお待ちしています。商品紹介や取り組み事例の報告等もお寄せ下さい。

編集・発行/滋賀グリーン購入ネットワーク事務局

〒520-0044

滋賀県大津市京町三丁目4-22 滋賀会館1階
(社)滋賀県環境保全協会内

TEL:077-510-3585

FAX:077-510-3586

E-mail:sgpn@oregano.ocn.ne.jp

URL://www.shigagpn.gr.jp/

印刷・デザイン/(株)プラスワン

